

お父さんのプラスの言葉

福森 絢斗

「カキーン」

プロ野球きゆうじやないから、こんな音はしなかったけれど、ぼくのおもちやのバットにボールが当たった時のことをおぼえています。

お父さんが、バットのもち方から、ていねいに教えてくれました。バットをもつ時は両手をくつつけること、バットをふる時はボールをよく見ること、足の重心を動かすこと。ボールを一きゆう一きゆうなげるたびに、アドバイスをくれました。でも、なかなかバットに当たらないので、イライラしててき当にバットをふってしまいます。するとよけいにボールをうつことができません。

「イライラしても、ボールは当たらんよ。」

お父さんは、落ちついて言ってくれました。一回しんこきゆうをして、しっかりとまえます。すると、いい音がして、バットをもっていたぼくの手は、ジーンとしてビリビリというかんしょくがありました。これが、ボールをうつたということなんだと、とてもいい気もちになりました。お父さんも、

「よし、いいぞ。」

と、え顔でよろこんでくれているのが分かりました。それから、何回もボールをうて

るようになり、公園のはしまでボールがとんだ時は、

「すごい、すごい。」

とほめてくれました。ぼくは、うれしい気もちでいっぱい、たくさんボールをうてるようになりたいと思いました。

また、キャッチボールのれんしゅうでもいいボールをなげるとかならずお父さんは、

「ナイスボール。」

と言ってくれます。お父さんからほめられると、やっぱりぼくは笑顔でうれしくなります。

ぼくは、大きくなったらマッサージになりたいです。たくさんの人をつかれをとつてあげて、気もちよくなつてもらいたいからです。しごとでつかれているお父さんにも、マッサージをしてあげます。こしがいたいとよく言っているお父さんには、こしの所を力をいれて、ていねいにマッサージをします。足のうらをふんだりもします。

「あー、気もちいいな。ありがとう。」

そう言ってくれるので、うれしくてぼくはもつと気もちよくしたいなと思います。

平日は、し事をがんばっているお父さん。休みの日は、野きゆうをしたり、べん強をおしえてくれたりするお父さん。お父さんに、ほめてもらえるとおぼくはとてもうれしくなつて、つきもがんばろうと思います。そんなたくさんのプラスの言葉をくれるお父さんに、ぼくもたくさん、ありがとうの気もちをつたえたいです。

お父さん、いつもありがとう。大すきです。